新聞掲載

南海日日新聞　R4.8.28

若さあふれる「少年の主張」を紹介

「少年の主張」鹿児島県大会（県青少年育成県民会議など主催）は7日、鹿児島市の県青少年会館でありました。県内の中学生10人が出場し、将来の希望や社会に対する意見などを発表。奄美群島からは、喜界町立喜界中学校の小山光さん（3年）と、奄美市立東城中学校の林海心さん（同）が優良賞を受賞しました。2人の若さあふれる主張を紹介します。

僕の経験から

東城中学校3年　林　海心

僕は昔から、人の顔色をうかがいながら話してしまう。友達や先生に限ったことではなく、お母さんやお父さん、じいちゃんばあちゃんといった身近な人の顔色まで気になって話してしまう。なぜこんなにまで人の顔色をうかがって話をしてしまうのか。お聞きのみなさんは疑問を抱いているだろう。その理由は「怖い」からだ。僕の発言ひとつで相手を怒らせたり、不愉快な気分にさせてしまったりする。そんなふうになってしまうのが怖いからだ。だから相手の顔色をうかがい、どんなふうに話せば、どんな言葉を使えば悲しませないかいつも考えてしまう。それがたとえ自分の本心じゃなくても、人を悲しませないのなら全く問題ない。大丈夫だと思っていた。

そんなある日、一つの事件が起こった。それは、僕が友人と話していた時のことだ。その日も僕は顔色をうかがいながら話していた。そんな時に友人がこんなことを言った。「海心ってさあ、今話してることって本心なの？」と。僕は、何も言うことができず、ただその場に立ちすくんでしまった。そして気づけばまた顔色をうかがいながら話そうとしている自分がいた。

…。その日から僕は、どうやってこれから話そう、どうしたらいいのだろうと心がとてもモヤモヤしていた。

しかし、そんな僕の考えを覆す出来事が起こってしまった。それは、僕がテレビの討論番組を見ていたときだ。出演者の一人が、「私はこういうふうに思うけれど、あなたはどう考えます？」と聞いていた。僕だったらきっとまたいつものように顔色をうかがい、相手を怒らせないようなベストな答えを出そうとするはずだった。しかし、答えた人は、「いいえ 私はあなたとは違い、こういうふうに思います」と答えた。

僕はとてもびっくりした。僕はてっきり自分の気持ちを抑えて、相手の気分を害さないような言葉や内容を選ぶはずだと思っていたからだ。答えた人はさらに自分の考えや意見を真っすぐに話し続けた。相手の気持ちを考えずに話し続けていたら、そのうちに泣かせてしまったり、けんかになってしまったりしてしまう。僕は、はらはらしながら聞いていた。すると、答えた人がこんなことを言い始めた。「自分の意見や言いたいこと、思っていることを隠すことはいけないことだと思っています。僕は恐れずに自分の気持ちをしっかりと伝えることは一番大切だと思います」

まるで僕に言っている話だと思った。そして気づくことができた。顔色をうかがいながら話すこともちろん大切なことだ。しかし一方で、自分が心から思っていることを素直に話すことも大切なのだということを。

僕はこの経験を通して、人の顔色をうかがわずに話すようになった。そのおかげか前より楽しく話すことができて、前話していた友人からも、「今の方が全然楽しそうに話してみえるよ」と言われた。でもたまに、本当に少しだけ人の顔色をうかがうときもある。しかし、以前に比べたら断然楽しく暮らすことができている。

僕だけが抱えていたと思い込んでいた「顔色をうかがう」という悩み。しかし、テレビでの経験から実は多くの人々が悩んでいることではないかと思うようになった。僕はかなり克服することができたと思う。そのおかげで自分の気持ちを伝えることの大切さや楽しさを知ることができた。悩みを抱えている多くの人たちに、僕の経験を伝え、楽しさを共有していきたい。